

茗溪学園 中学校・高等学校

“Study Skills を身につけさせる教育” その6

教務部長 田代 淳一

茗溪学園流 Study Skills の高次レベルに『疑問点の解決』『疑問点・解決事項の整理』があります。Skill 項目としては「得られた資料の階層整理」「結果の分析と総合」「レポートの表現形式」「レポート表現の重要点」です。知的 Motivation から抱いた疑問点を調査し、討論しながら解決してきた情報を整理しレポートに表現していく、高次元の Skill です。もちろん、茗溪 Study Skills は6年間のスパイラルですから、この Skill も低学年から緩やかに始まります。

中学2年の筑波山自然地理巡検

最初は中学2年の筑波山自然地理巡検のレポート。ここでは班で1冊のレポートを作成しますが、得られた資料の意味とまとめ方、レポートにはどのような項目を含むべきかは教師が提示します。レポートに地形図を挿入することや露頭の写真や図（描き方も練習します）、サンプルの添付方法、考察の作り方もすべて指導します。図書館には過去20年の先輩たちの筑波山巡検レポートが数百冊保管されているので、それを参考にすることもできます。

というように、導入は“手取り足取り”です。こういう、定型の訓練を数年間かけて繰り返し、十分身につけてから各自のオリジナルを発揮させる。最初の段階ではグループで取り組み、練習させ、十分な定着ができたなら個人の取り組みに移行させる。これが茗溪の基本指導パターンです。

高校2年の個人課題研究

一応茗溪 Study Skills の最終段階としているのが高校2年の個人課題研究です。これは2単位の必修科目で、自分で研究テーマを設定し、指導教官を教員の中から選んで1年間研究し論文にまとめるという“総合科目”です。従って、ここでの指導や生徒の performance がこの Skills の獲得レベルを表していると思いますので、その2でも2例だけ紹介しましたが、今年卒業した生徒で私が指導を担当した数例を紹介します。

Aさんの場合

テーマ設定：「アレルギー」

Aさんは医学に関心がありましたので、個人課題研究のテーマの初期設定を「アレルギー」とし、指導担当で私を希望しました（私は化学の教師です）。ただ、私はアレルギーを研究テーマにすることはやめた方がよいとアドバイスしました。それは、アレルギーに関する項目（原因や治療法など、高校生が疑問を抱きそうなレベルの項目）にはほとんど結論が出ていて、一般向けの書籍も多く、論文として深みのあるものにはならないからです。しかし、彼女は自身がアトピー性皮膚炎に苦しんでいるせいもあり、何としてもこのテーマにしたい、絶対一般向けのレベルを超えてみせると強く希望したので任せることにしました。

文献調査

研究スタートが高校1年の3月ですが、彼女の意欲は抜群で4月までには大抵の一般向け書籍は読破し、アレルギーの原因と対処療法の基礎知識は整理が終わっていました。（文



中学2年 キャンプ